



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社

上場取引所 東

コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西田 寛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 長尾 拓昭

TEL 075-841-9385

四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	8,819	2.4	497	6.6	470	12.4	256	2.7
25年3月期第3四半期	8,612	2.4	467	15.3	418	17.0	263	34.7

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 289百万円 ( 2.5%) 25年3月期第3四半期 296百万円 ( 23.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	12.89	
25年3月期第3四半期	13.24	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	16,991	4,632	24.0	205.21
25年3月期	17,418	4,403	22.1	193.64

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 4,083百万円 25年3月期 3,853百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期		0.00		2.00	2.00
26年3月期		0.00			
26年3月期(予想)				2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,400	0.3	380	9.8	310	13.2	300	10.2	15.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	20,000,000 株	25年3月期	20,000,000 株
期末自己株式数	26年3月期3Q	101,142 株	25年3月期	100,169 株
期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	19,899,147 株	25年3月期3Q	19,902,411 株

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の積極的な金融政策、財政政策等による景気回復傾向が見られる一方で、円安基調による輸入原材料価格の上昇にともなう消費財の値上がりに加え、平成26年4月以降の消費税増税後の景気先行き懸念などから不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループでは、グループ内各社の連携を強化することで、お客様のあらゆるニーズにお応えできる態勢づくりに努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は8,819百万円（前年同期比206百万円、2.4%増）となり、営業利益は497百万円（前年同期比30百万円、6.6%増）、経常利益は470百万円（前年同期比51百万円、12.4%増）となりました。しかし、福井駅付近の土地の取用が第4四半期になったこともあり、四半期純利益は256百万円（前年同期比7百万円、2.7%減）となりました。

次に、事業別セグメントの状況をご報告いたします。

#### ① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、本年7月に嵐山駅施設の大規模リニューアル工事が完了し、新たな観光スポットを創出したことで、広くマスコミに取り上げられ、多くのお客様にお越しいただきました。また、本年9月の台風18号による嵐山一部地域の被害に対し、多くの方々のご支援をいただいたことで、予想を上回る早期の復旧となり、当第3四半期連結会計期間の収入は増加傾向で推移しました。

営業面では、嵐山駅施設内の「きものフォレスト」の夜間ライトアップを実施したほか、沿線にある甘味処などを巡る「嵐電沿線スイーツラリー」や「貸切ガイド電車」の運行など、お客様に楽しんでいただける各種イベントやサービスの提供に取り組みしました。

叡山ケーブル・ロープウェイでは、本年10月中旬にケーブルカーの巻上装置の補修工事による運転休止を行い、多くのお客様にご迷惑をおかけしました。現在、3月の営業に向け、冬季休業期間中に徹底した整備・点検を実施し、万全の態勢で比叡山にお客様をお迎えする準備を整えています。

バス事業におきましては、京都バス(株)では、基幹路線の増強および一部路線の見直しにより、輸送の効率化やお客様のバス利用を促進し、増収が見込める新たな路線への資源の集中と営業施策の拡充に取り組みしました。また、京都市交通局との連携を強化し、バス運賃の均一区間地域の拡大を図るなど、京都市内のバス交通体系の充実に向けたお客様へのさらなるサービス強化を進めました。京福バス(株)では、路線バス事業において、本年10月には福井市東部の岡保地区内でコミュニティバスの新規運行を開始し、地域のお客様のご意見やご要望を反映しながら、公共交通空白地域におけるバス利用促進と利便性向上を図りました。貸切バス事業では、「貸切バス事業者安全性評価認定制度」による「二つ星」の認定を取得したことにより、さらなる安全意識の向上を掲げ、お客様に喜ばれるツアー商品の企画など、販売促進に取り組みしました。

タクシー事業におきましては、福井地区のタクシー3社は、共通した高齢者割引制度を推進する取り組みを強化したほか、京福バス(株)を中心とするグループのバス事業者と連携した地域の「足」の確保に地元自治体とともに取り組みました。

以上の結果、運輸業の営業収益は5,946百万円（前年同期比88百万円、1.5%増）となりましたが、嵐山駅施設のリニューアル等により費用が増加した結果、営業利益は131百万円（前年同期比91百万円、41.1%減）となりました。

#### ② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスでは、積極的な営業活動に取り組み、福井市内の各分譲宅地を完売したほか、「あわら市二面（ふたおもて）」分譲宅地販売においても、完売に向け販売促進施策を展開しました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、本年11月に「タリーズコーヒー 嵐電嵐山駅店」が開店したことで、すべてのテナントが出揃い、秋の観光シーズンには、お客様を万全の態勢で同スクエアにお迎えすることができることとなりました。今後は、さらなる品揃えの充実や快適な売場づくりなどを進めるとともに、心のこもった接客サービスを目指します。また、昨年8月に取得した「コンソラーレ土佐堀」も所期の計画どおり推移し、増収に寄与しています。

「BOAT RACE 三国」では、舟券の発売日数や発売レース数の増加に努めるとともに、大型レース（GⅡレース）を誘致するなど、各種増収施策に取り組みました。一方、インターネットや電話利用による舟券発売が好調ななか、さらなる利用促進のためのキャンペーンを実施するとともに、自社映像センターのデジタル化を進め、衛星放送、インターネット放送のハイビジョン化による高画質・高音質でのボートレースの情報発信を行い、新たなお客様の開拓に取り組みしました。

以上の結果、不動産業の営業収益は1,689百万円（前年同期比115百万円、7.3%増）となり、営業利益は301百万

円（前年同期比115百万円、62.4%増）となりました。

### ③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、「中国料理 吉珍樓（キッチンロウ）」、「八幡家（やわたや）」、「京都ぎをん八咫（やた）博多店」の各店舗において、周辺のお客様への販売促進活動に引き続き取り組む一方、「食」の安全・安心に対する社会的関心が高まるなか、品質管理体制の強化や接客サービスの向上に努め、さらなるお客様の信頼獲得に努めました。

物販業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」内各店舗での販売商品を充実させるとともに、「駅のおでん屋2013」などの臨時の売店を開設し、嵐山を訪れるお客様にご好評をいただきました。

越前松島水族館では、動物たちと触れ合える機会を増やしたイベントの開催や、地元三国港で水揚げされたブランド蟹「越前蟹」の足に着けられた「タグ」の持参による入館料の割引制度を導入するなど、ユニークな企画を実施し、多くのお客様にご来館いただきました。なお、現在、春の開園55周年に向けて、お客様に喜んでいただける施設への改修や企画に鋭意取り組んでいます。

三国観光ホテルでは、福井県ならではの「越前蟹」を満喫していただくプランをご用意し、お客様の獲得に向けた営業活動に継続して取り組む一方で、全従業員が「おもてなしの心」をもってお客様をお迎えすることに努めました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は1,673百万円（前年同期比28百万円、1.7%増）となり、営業利益は65百万円（前年同期比12百万円、23.1%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、負債の返済による現金及び預金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ427百万円減少し、16,991百万円となりました。負債は、借入金の返済や社債の償還による減少などにより、前連結会計年度末に比べ656百万円減少し、12,358百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ229百万円増加し、4,632百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年4月30日の「平成25年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,651	1,255
受取手形及び売掛金	1,138	1,058
販売土地及び建物	71	25
商品及び製品	25	31
仕掛品	—	0
原材料及び貯蔵品	54	65
前払費用	34	40
繰延税金資産	104	64
その他	65	79
貸倒引当金	△11	△16
流動資産合計	3,136	2,604
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,617	8,533
機械装置及び運搬具(純額)	913	888
土地	2,893	2,906
リース資産(純額)	916	832
建設仮勘定	17	175
その他(純額)	242	375
有形固定資産合計	13,600	13,710
無形固定資産		
その他	113	96
無形固定資産合計	113	96
投資その他の資産		
投資有価証券	237	259
その他	310	305
投資その他の資産合計	548	564
固定資産合計	14,262	14,371
繰延資産		
社債発行費	20	14
繰延資産合計	20	14
資産合計	17,418	16,991

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	71	88
短期借入金	3,961	3,720
1年内償還予定の社債	376	331
リース債務	198	194
未払金	606	466
未払法人税等	91	62
未払消費税等	35	103
賞与引当金	236	86
その他	457	525
流動負債合計	6,034	5,579
固定負債		
社債	987	736
長期借入金	3,737	3,702
リース債務	739	652
長期末払金	619	709
繰延税金負債	288	335
退職給付引当金	263	283
役員退職慰労引当金	131	139
その他	213	219
固定負債合計	6,980	6,779
負債合計	13,015	12,358
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
利益剰余金	2,556	2,772
自己株式	△14	△14
株主資本合計	3,812	4,028
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41	54
その他の包括利益累計額合計	41	54
少数株主持分	549	549
純資産合計	4,403	4,632
負債純資産合計	17,418	16,991

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業収益	8,612	8,819
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	8,045	8,226
販売費及び一般管理費	99	94
営業費合計	8,145	8,321
営業利益	467	497
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	5
負ののれん償却額	12	15
雑収入	14	19
営業外収益合計	32	41
営業外費用		
支払利息	69	60
社債発行費償却	5	5
雑支出	6	3
営業外費用合計	81	68
経常利益	418	470
特別利益		
移転補償金	74	—
補助金	12	—
固定資産売却益	24	39
特別利益合計	111	39
特別損失		
固定資産除却損	17	52
固定資産売却損	180	—
投資有価証券売却損	3	—
特別損失合計	201	52
税金等調整前四半期純利益	328	457
法人税、住民税及び事業税	74	102
法人税等調整額	△45	80
法人税等合計	28	183
少数株主損益調整前四半期純利益	299	274
少数株主利益	36	18
四半期純利益	263	256



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	299	274
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	14
その他の包括利益合計	△3	14
四半期包括利益	296	289
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	259	270
少数株主に係る四半期包括利益	37	19

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,837	1,375	1,398	8,612	—	8,612
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	20	198	246	465	(465)	—
計	5,858	1,574	1,645	9,078	(465)	8,612
セグメント利益	223	185	53	461	5	467

(注) 1 セグメント利益の調整額5百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,928	1,481	1,409	8,819	—	8,819
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	18	208	264	491	(491)	—
計	5,946	1,689	1,673	9,310	(491)	8,819
セグメント利益	131	301	65	498	△0	497

(注) 1 セグメント利益の調整額△0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。